

気仙沼市教育委員会便り

気仙沼市教育委員会
令和7年9月18日

－令和7年度全国学力・学習状況調査－ 気仙沼市の結果について

保護者の皆様に今年度実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果をお知らせいたします。
調査結果とともに浮かび上がる学習・生活面等の課題について、学校と保護者が情報を共有し、一体となって改善・充実に取り組みたいと考えております。保護者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

本調査は、国の基礎的な学力を測るものとして、その結果を厳粛に受け止め、今後の授業等の改善に生かすものです。特に中学校数学・理科の調査結果から、中学3年生に対して、将来に及ぶ弱点とさせないために、各校において、授業における学び直し、補習、個に応じた課題解決支援により、基礎的な学力の底上げに取り組みます。

次ページ「(2)児童生徒質問紙調査結果」から、児童生徒の非認知能力「徳」分野～自己肯定感、「学校へ行くことを楽しみにしている」「人の役に立ちたい」等～が高水準で推移し、「対話・探究学習」分野～話し合い活動や発表活動等への取組等～が上昇傾向にあることは、これまでの指導改善の成果です。これに「授業充実度」分野の向上を加えることが、今後の気仙沼らしい教育の根幹を成すことから、「3 今後の対応」に示す授業改善等に取り組みます。

1 調査の概要

調査実施日：令和7年4月17日（木）、 調査対象：小学6年全児童、中学3年生全生徒

調査内容：教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)、児童生徒質問紙調査

2 調査結果の概要

(1) 教科の学力に関する調査結果（平均正答率の推移）

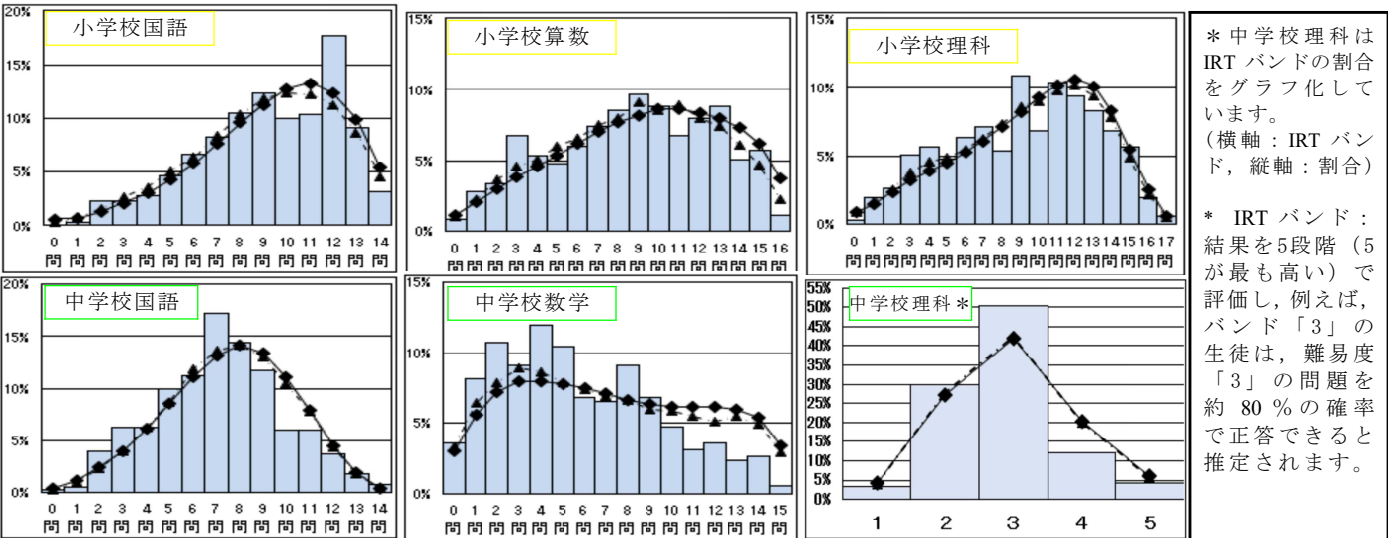
対象	教科	年度	平均正答率（％）				対象	教科	年度	平均正答率（％）			
			気仙沼市	宮城県*	仙台市	全国				気仙沼市	宮城県*	仙台市	全国
小学校	国語	R7	86	85	86	86.8	中学校	国語	R7	51	54	56	54.3
		R6	67	66	67	67.7			R6	54	57	61	58.1
		R5	83	86	88	87.2			R5	67	70	73	69.8
		R4	62	62	65	66			R4	70	68	71	69
		R3	61	62	65	65			R3	66	63	68	65
		R元	62	61	63	64			R元	72	71	77	73
	算数	R7	54	55	58	58		数学	R7	38	46	51	48.3
		R6	60	59	62	63.4			R6	45	51	56	52.5
		R5	55	60	62	62.5			R5	44	48	53	51
		R4	56	58	62	63			R4	43	45	53	51
		R3	65	66	70	70			R3	55	52	60	57
		R元	63	64	67	67			R元	58	55	63	60
	*2 理科	R7	54	55	58	57.1		理科*3	R7	488	503	519	503
		R4	59	61	63	63.3							
		H30	59	59	61	60.3							

*1 R7の宮城県は仙台市を含む数値であり、R6以前は仙台市を含まない数値です。

*2 理科は概ね2年おきに実施されます。

*3 中学校理科は生徒ごとに異なる問題が出題されているため、平均正答率ではなく、正誤パターンを分析して能力値を推定し、500を基準値とした共通尺度に換算して得点化した数値(IRTスコア)で記載しています。

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合） ■：本市、▲：宮城県、◆：全国



(2) 児童生徒質問紙調査結果

「前半」は平成30年～令和3年の平均値（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）, 「後半」は令和4年～令和6年の平均値

■ 「前半、後半、全国」より高い数値 ■ 「前半、後半、全国」より低い数値

数値は肯定的な回答の割合（％）

非認知能力「徳」	小学6年				中学3年			
	前半	後半	本市	全国	前半	後半	本市	全国
自分にはよいところがある	77.1	79.4	84.3	86.9	69.4	76.6	85.5	86.2
学校に行くのは楽しい	90.2	85.0	90.2	86.5	80.8	84.8	89.1	86.1
人の役に立つ人間になりたい	95.4	96.4	97.0	96.4	95.0	95.8	97.1	96.6
地域や社会の課題を自分なりに考える	55.2	72.4	80.9	81.3	46.2	69.6	78.9	75.3

対話・探究学習

質問項目	小学6年				中学3年			
	前半	後半	本市	全国	前半	後半	本市	全国
授業は自分にあった教え方、教材、学習時間になっていましたか	87.1	80.2	84.9	83.4	77.8	81.7	79.9	79.3
課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.8	79.5	76.5	80.3	75.8	83.1	75.7	77.7
資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか〔授業〕	66.2	70.3	73.4	68.6	61.3	75.6	72.6	63.0
自分で課題を立て情報を集め整理し発表する学習に取り組んだ〔総合的な学習の時間〕	80.6	84.0	86.2	82.3	76.2	89.9	91.0	79.5
話し合う活動を通じて自分の考えを深め広げた	76.5	82.6	88.0	84.9	78.9	85.2	84.5	84.7
学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	71.1	76.5	84.0	83.3	76.8	84.9	87.1	84.3

授業充実度

質問項目	小学6年				中学3年			
	前半	後半	本市	全国	前半	後半	本市	全国
国語	国語の勉強は好きですか				71.3	67.1	64.7	58.3
	国語の授業内容はよく分かりますか				63.3	69.4	68.3	57.9
算数 数学	国語の勉強は好きですか				88.2	87.5	84.6	82.8
	国語の授業内容はよく分かりますか				79.9	87.4	88.2	77.0
算数 数学	算数(数学)の勉強は好きですか				68.1	61.7	59.1	54.7
	算数(数学)の授業内容はよく分かりますか				56.2	60.1	48.5	53.8
算数 数学	算数(数学)の勉強は好きですか				87.1	80.5	81.5	78.3
	算数(数学)の授業内容はよく分かりますか				75.3	78.4	67.2	70.3

その他(生活一般、ICT活用等)

質問項目	小学6年				中学3年			
	前半	後半	本市	全国	前半	後半	本市	全国
平日の家庭学習時間(小学生1時間以上、中学生2時間以上と答えた割合)	76.0	62.4	63.3	54.0	28.5	21.0	19.6	30.8
朝食を毎日食べる割合(毎日+どちらかといえど)	96.4	94.5	95.5	93.7	94.4	93.1	93.0	91.2
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う	84.4	86.6	95.2	92.2	79.1	89.6	92.3	92.2
授業でICTを使う程度(毎日と答えた割合)	7.9	24.8	41.5	24.5	7.1	70.0	72.9	29.5

3 今後の対応

(1) 「学習者主体の授業づくり」の継続・強化

- ① 授業において、知識習得のための活動と知識を活用する活動とにセットで取り組み、児童生徒が思考する時間を確保して習得内容の定着を図り、「分かった、できた、次もできる」という自信と次の学習への意欲付けにつなげます。活用の活動には、A Iドリルあるいは市教委が作成する、学力検査の過去問題等をまとめた教材集を利用します。
- ② 授業において、個々の児童生徒のつまづき等を表す声やサインを把握し、それに柔軟に対応する授業を進めます。
- ③ 小中連携教育によって、義務教育9年間を見通す学習指導改善を図ります。例えば、学習や生活の基本的な習慣付けを学校群内で緩やかに統一すること、学校や校種を超えた教員の研修に取り組みます。

(2) データに基づいた課題の深掘り・学習の個別化

- ① 児童生徒による意識調査や各種学力検査の結果、A Iドリルの活用履歴、つまづき確認テストの結果等について、個々の児童生徒ごとの分析と対策を教員間で徹底的に話し合い、個別の指導・支援につなげます。
- ② 中学校数学と英語においては、弱点克服のために、放課後の時間等を活用した補習、長期休業期間の特別講義を実施します。
- ③ A Iドリルの教科学力指標への効果が部分的ですが検証されています。さらに効果的な活用について研究し、個に応じた復習等に活用し、苦手意識の払拭を図ります。

(3) 教員の専門性向上と協働体制の強化

- ① 教員同士の学び合いを充実します。モデルとなる教員による示範授業を実施します。
- ② 県指導主事訪問や市大学連携学力向上事業において、学校群を単位として、授業改善研修を充実します。また、授業力向上指導専門員による、学校のニーズに基づく集中的な支援を展開します。

(4) 地域・家庭との連携強化

- ① 保護者向けの学習会やワークショップによって、学習指標を共有し、家庭での学習の重要性や具体的な支援方法を情報提供します。
- ② 放課後学習支援や学習相談に、多様な人材にボランティアとしての協力を願います。
- ③ スマートフォンやゲーム等の長時間使用を回避するためのメディアコントロールの声掛け等、家庭と連携した取組を推進します。